

水稻有機栽培用の新型除草機の使用法

有機栽培米の生産は、除草に多大な時間がかかることが大きな問題でした。近年、「高能率水田用除草機」が開発され、その特徴、効果、使用法を紹介します。

1 除草機の特徴

- ・除草部が運転席の前方にあり、条間を確認しながら、除草できます。
- ・条間を回転ロータ、株間をツースで除草します。
- ・除草部の高さは、田面に合わせて、自動的に調整されます。

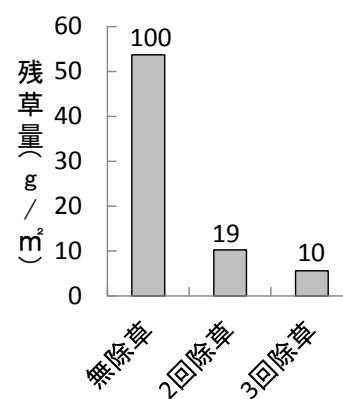


2 移植後 10 日目頃と 20 日目頃に計 2 回除草します。

2 回の機械除草により、雑草は約 20%にまで減少します。残草が多い場合、移植後 30 日目頃に追加実施すると、雑草は約 10%になります（第 1 図）。

※ 機械除草の目安は、雑草本数 100 本/m²です。ヒエ多発水田なら、雑草害が大きいので、雑草本数 30 本/m²が目安になります。

※ 機械除草の時間は 10a あたり 15~20 分程度です。



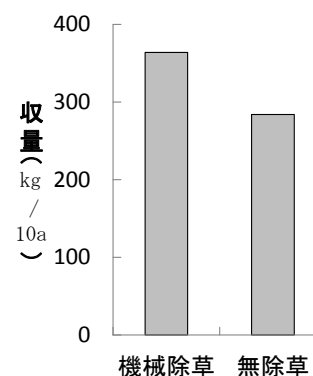
第 1 図 幼穂形成期の残草量
(県内事例)。

3 収量は向上し、品質への影響はありません。

除草機の利用により、5~20%程度、除草しない場合に比べ、増収します（第 2 図）。品質に影響は認められません。

4 その他

- (1) 箱あたり播種量 60~80g の、中成苗（4 葉以上）を移植します。
- (2) 移植時、1 本植えの株が多い場合、苗の掻きとりを増やします。
- (3) 1 回目の機械除草時の水深は 3~5cm とし、日数が経過するほど、若干深めとします。
- (4) 除草後、幼穂形成期 5 日前頃まで湛水します。その後、落水・間断通水し、出穂期に人が立って沈まない程度に土を固めます。
- (5) 本技術は、みのる水田除草機 KWM4、KWM6、KWM8 対象とし、取扱い説明書に従って、行ってください。



第 2 図 収量（県内事例）。

[技術の効果およびコスト]

手取り除草から機械除草とすることで、大幅に省力化でき、13,500 円/10a の労働費が削減できます。

(農業試験場 作物部 スマート農業研究 G)